家を建てるなら石川県建築組合連合会加盟の信頼できる大工さんにお任せください。北陸の風土に適した木造住宅を一軒、一軒、心を込めて造ります。
そこには「安心」があります。
一般社団法人 石川県建築組合連合会

建連いしかわ

発行所
〒920-0022 金沢市北安江4丁目15-15
(一社)石川県建築組合連合会
TEL(076)262-4714・FAX(076)262-4718
ホームページ http://www15.ocn.ne.jp/~ishiken/
編集 広報部会

迎春

中島町「平成堂」　竣工 平成八年十一月

中島町熊甲神社の枠旗祭りは朝鮮文化を繁栄した祭りであり、中島町ではこの「枠旗祭りの郷」整備の一環として、平成八年に「平成堂」を建設しました。

建設には地元宮大工小林秀一棟梁（故人　元県連副会長　昭和五十三、五十四年）が当たり、韓国文化財復旧現場に技術者を訪ね、桁組・隅木・扇垂木などの木組みについて韓国文化財専門委員の技術提供を受けたものです。

また仕上げ塗装に関しては韓国丹青（たんちょう）の丹青美術師数名が来日の上、施工完成したものです。

撮影／中島町建築組合長　井平　秀一氏

新しい年を迎えて

(一社)石川県建築組合連合会
会長　加藤　三郎

平成二十七年の新年を迎え、会員とご家族の皆様に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より石川県建築組合連合会の事業及び運営に対しまして、ご理解とご支援ご協力を賜り心より厚く感謝申し上げます。

さてアベノミクスで景気が良くならない中、円安で物価の値上り等で大変厳しい状況が続いています。

消費税増税で冷えこんでいる中、政府の経済対策で補正予算案に、省エネ性能に優れた住宅の新築や住宅のリフォーム工事を後押しする「住宅エコポイント」制度の復活が盛り込まれ、石川県連では、小松・金沢・七尾の三カ所に事務受付を開設しています。お問い合わせは、県連事務局までお願いいたします。

昨年十二月二十七日以降に工事契約した案件を対象にポイントを付与し、地域産品や商品券などと交換できる様になり、また、長期固定金利の住宅ローン「フラット35S」の金利引き下げ幅拡大も予定されています。なお、「住宅エコポイント」説明会が各地で行われています。

いろんな補助制度がある中で、職人も技術面だけでなく、しっかりと勉強をして対応し、新時代の生き残りをかけて、力を合わせて頑張りましょう。

「建築大工」はものづくりの楽しさが如実に実感できる職種の一つです。それは主に木造住宅の建築という仕事から、自分の技術や技能のひとつひとつの積み重ねによって、着実に家屋が仕上がっていく過程を直に確認出来るからです。

そして、その仕上がる過程を誰よりも楽しみにしている人がいます。それは人生でもっとも高価な"家"という買い物をした施主のお客様。完成した時の感動をともに分かち合う喜び、まさに自らが日頃の現場で鍛えた技術・技能が報われる瞬間です。

木造住宅の建築において、近年はその構造材の加工は、工場でのプレカットがほとんどです。しかし、現場での仕上げや調整など手加工の技能は不可欠です。また、より個性的な住宅建築への需要も顕著です。このことからも、この「建築大工」という職種の技能や技術はこれからも、ますます必要とされる事でしょう。

現在、建築産業は、仕事不足・低賃金など、多くの建設労働者や中小建設業者が仕事と暮らしの両面で重大な危機に立たされています。苦境が続けば、建設産業に働く労働者は離反し、新たに入職する技術者はいなくなり、技術・技能の継承は出来なくなります。日本の建設技術は、世界に誇る日本の文化です。このままでは、建設産業全体が消滅の危機を迎える事になります。

今年は当連合会において、最も大きな事業の一つである全建総連第五十六回定期大会が、金沢市内の「本多の森ホール」で十月二十八日～三十日の三日間開催されます。全国から約一，五〇〇名の仲間が金沢で滞在されます。時間にゆとりを持って頂き「石川の伝統的建造技術を伝える会」の匠の技で復元された金沢城内をしっかりと見て頂きたいと思っています。

近くに名勝兼六園があり、玉泉院丸広場も完成し、最もめぐまれた地域になったと誇りに思います。

また、三月十四日には北陸新幹線が開業し、金沢～東京間が二時間二十八分で首都圏と結ばれ、観光客も沢山足を運んでもらえる事と思います。首都圏へ日帰り出来る事を楽しみにしている方は沢山おられると思います。

さて、県連では組織増勢に力を入れ、ホームページも新しく立ち上げて、わかりやすく、親しんでもらえる様に努力しています。少し遅れましたが、今年の四月から中建国保保険証のカード化が始まります。本人はもちろん家族も一枚のカードになります。また、以前よりお話しさせて頂いていますように、健康診断と「中建国保の便利帳」とうまくつきあって頂きたいと思っています。

安心ひろがる現金給付、中建国保の償還金制度、他に傷病手当金や葬祭費、家族での保養施設の利用、他にインフルエンザの予防接種の補助や在宅介護の為に住宅改修をする時の補助等いろいろ沢山あります。くわしくは事務局までお尋ね下さい。中建国保と労災は大切です。

結びに、組合員各位のご健康とご繁栄をご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

新年の抱負

指導部長　西田　達夫

新年明けましておめでとうございます。

昨年四月に副会長と指導部長を承った、寺井北部組合長の西田達夫です。

指導部は基準賃金や組合員加入キャンペーンの実施などをしています。近年、県連組合員が減っている現状をなんとかして、組合員が加入しやすい組合作りにはげみ、減少に歯止めをかけたいと思っています。

昨年十一月の組織拡大への取り組みについて各組合にご尽力いただきました。誠にありがとうございます。本年十月二十八日から全建総連石川大会が催されます。そんな折になんとか組合員増を目指したいと思います。

組合員のみなさまのご協力をよろしくお願いします。

厚生部長　髙嶋　久男

新年あけまして、おめでとうございます。

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

副会長及び厚生部長として務めさせていただいて一年が経ちました。昨年の厚生部会は、健康診査事業、集団健診、グラウンドゴルフ大会、ボウリング大会、物故組合員の追悼法要、名誉組合員会を、皆様方のお力添えにより滞りなく開催することができましたことに深く感謝と御礼を申し上げます。

今年はこの行事のほかに、全建総連の大会が金沢で開催されることとなっております。組合員一人一人のご尽力のもと成功に導きたいと思っております。

また、昨年より行っております組合員増員活動にも積極的に取り組んで参りたいと思います。今一度皆様に更なるご協力をお願い致しまして新年のご挨拶とさせていただきます。

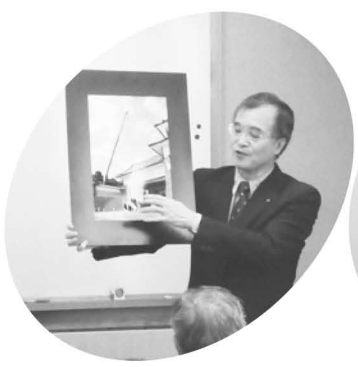
本年も皆様にとって良い年になるよう、全組合員一丸となって頑張っていきましょう。

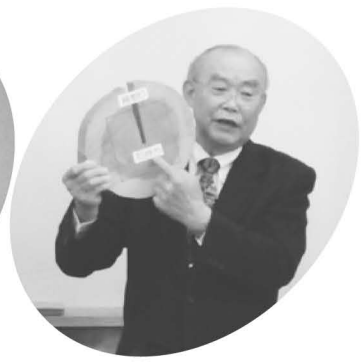
金沢城復元「匠の技」セミナーを開催

一般県民が伝統技術の技を体験

金沢城復元に関し、「石川の伝統的建造技術を伝える会」(事務局　石川県建築組合連合会)の主催で十一月十六日(日)に金沢城公園内　兼六園管理事務所レクチャールームで「匠の技セミナー」が開催された。

これは一般の県民の方々に伝統的技術を理解していただくために十一月の公共建築月間に併せて毎年開催してきており、今回が十一回目で参加者は三十七名であった。





最初に石川県営繕課田上課長が金沢城復元の経緯や目的などについて説明の後、引き続き「伝える会」の川元会長から「橋爪門の復元工事もいよいよ終盤で、来年三月の新幹線開業を待つ準備もできて来ました。今回は各専門職の話を聞いて頂いた後、金沢城の鉛瓦の施工の実演をしてもらいます。ぜひ職人の高度な技を体験して下さい」と挨拶があり、引き続き、工事別に、木工事は県連相談役の河村松一氏、建具工事は建具協同組合理事長の石森良洋氏、石工事は県石材組合連合会の出口　昭氏、左官工事は県左官組合連合会の大道浩氏、屋根工事は県金属屋根協同組合理事長島田孝二氏と副理事長の内尾孝夫氏、タイル工事は県タイル煉瓦事業協同組合副理事長の原田勝氏がそれぞれの専門工事についての要点や、苦労された点について写真や資料・道具を用いて説明した。

参加者の皆さんは解説を受けた後、そして屋根鉛瓦貼り付けを専門業種講師の指導に従いながら順次行い、制作の難しさを熱心に体験し、終了後の感想では、「なんと難しい仕事なんやと関心したわ。」と言う参加者もいました。

屋根の三尺角部分模型の木板に鉋掛けを、

全建総連中央行動

予算確保へ団結し奮闘

十二月三日、予算要求中央行動が東京・虎ノ門の全日通霞ヶ関ビルの会議室で開催され、四十四県連・組合から一六〇人が参加、石川県連からは加藤会長が参加しました。

午前中、三浦委員長より「十一月十九日の決起大会では各政党から激励をいただき良かったと思っている。衆議院が解散となり、私たちに関係する予算の編成がどうなるか。私たちの要求が実現できるよう、寒さが厳しくなってくるが団結して頑張ろう」と述べられました。

勝野書記長からは中央情勢報告があり「国民生活に関係する課題が多かった臨時国会は、十一月三十日までの会期だったが、二十一日に衆議院が解散された。『アベノミクス解散』と首相は言っているが、争点はそれだけではない。労働者の実質賃金は十六ヵ月連続でマイナスになっていること、雇用と社会保障、消費税増税、東日本大震災の復興支援対策、原発再稼働、平和の問題など、課題が山積している中での総選挙だ。二年間の安倍政権の評価と、今後四年間の進む道を選択することになる。仲間に『投票に行こう』と呼びかけよう。」と締めくくった。

午後、厚労省・保険局、同・能開局、環境省、林野庁と四つの交渉を行うとともに、地元議員要請を行い、午後三時から、報告集会が行われ、各省交渉と地元議員要請の報告があり、総選挙と越年予算編成の中、要求実現に向けて奮闘していくことを確認し合い、行動を終了した。

中建会計理事より

沖野恒久

新年明けましておめでとうございます。

本組合員・ご家族のみなさまにおかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平成二十七年度の中建国保に関する大きな変化が二点あります。

まず一つは、保険証がカード化になります。四月より世帯単位であった被保険者証を組合員・家族一人対して一枚の保険証カードとなり利用しやすくなります。三月より配布予定ですので、各支部中建担当者様にはご苦労をお掛けしますがご協力宜しくお願いします。

もう一つは、しばらく廃止していました適用除外制度を平成二十七年一月五日より取扱いを出来るようにします。今後、組合員の方で会社を法人予定の方は速やかに事務局にご相談して下さい。会社設立後、五日以内に適用除外の手続きが完了しないと適用除外が受けれなくなりますので注意が必要です。

最後にお願いですが、ハガキ要請の提出を本年度は目標九十五％以上にしたいと思っています。現在、六十九％で全国で五十三支部中四十五番に位置しています。一位は一八〇％で（配布以外で提出）していますのでご協力お願いします。ハガキ要請が中建国保予算に大変影響しますので、他の保険組合より良い状態が長く続けられるようにみんなで守っていきましょう。

中建国保ニュース

健康寿命

昨今、健康寿命という言葉をよく耳にしませんか。寿命は人が亡くなるまでの期間ですが、健康寿命は健康上の問題で日常生活が制限されずに生活できる期間だと定義されています。

たとえば、高血圧や糖尿病などの持病があっても他人の手を借りずに自立した生活ができる間は、健康と位置づけられています。厚生労働省の報告では図1の通り健康寿命は男性で七十・四二歳、女性で七十三・六二歳。平均寿命との差が男性で約九年、女性で約十三年あります。

この期間は寝たきりや介護を受けるなどで生活の質の低下を招くことが多く、医療費や介護費も多くかかります。平均寿命の延びを健康寿命の延びが上回れば、この期間を短くすることができます。

厚労省は高齢化社会の進展をにらみ、病気になったり介護が必要になる時期を遅らせることに重点を置いており、「健康日本21」として、その具体的な目標と数値（図2）などを定めており、広く国民に呼びかけておりますが、ご存じでしたか。

日本は世界一の長寿国となった今、健康寿命を如何に延ばすかが大切な目標となっています。みなさん、ご自身・ご家族のためにも目標数字に取り組んでみませんか。

（原稿協力）
（一財）石川県予防医学協会

健康寿命を延ばしましょう

健康寿命・・・健康上の問題がない状態で日常生活を送れる期間の事

「長生きを支える、足腰づくり」

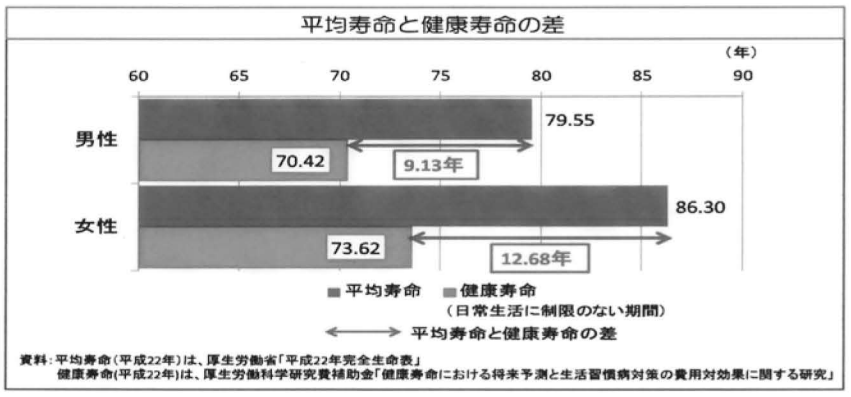


図1. 健康寿命を延ばそう

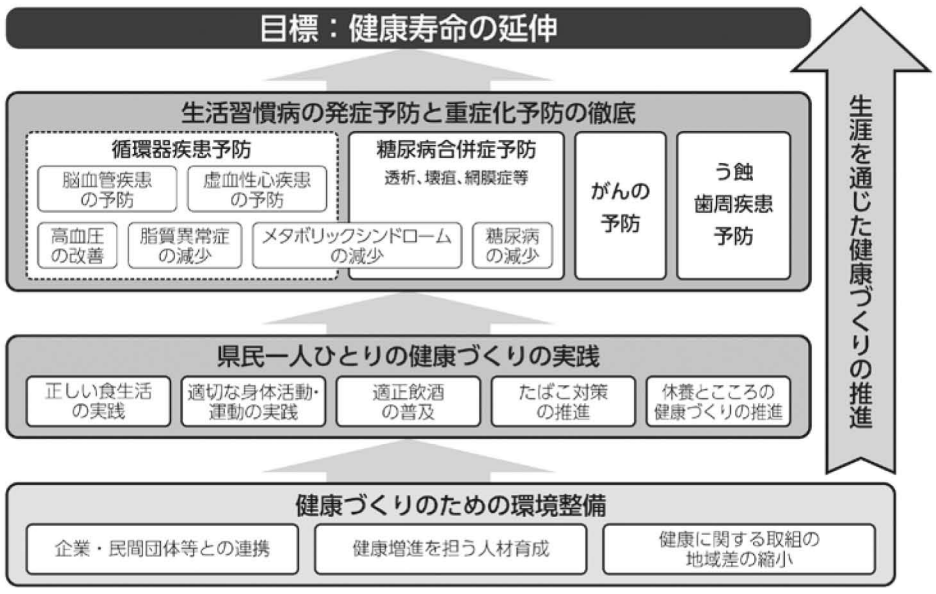


図2. 健康寿命を延ばすためにも取り組んでみましょう

新しい仲間

大聖寺	西田篤司	四一才	金沢市	佐々木亜衣
片山津	山崎英雄	四五才	〃	藤井大輔
山中	樫田憲一郎	二七才	〃	高土勝利
小松東部	川原貴宏	三七才	〃	山田洋司
小松南部	永田雅宏	四三才	〃	北清至
粟津	坂下智和	三七才	金沢西部	米田篤博
金沢市	御舘俊士	三四才	宇ノ気	橋本泰弘
〃	山内英昭	四二才	押水	上本淳太
〃	長瀬賢仁	三一才	〃	中町裕帆
〃	齋藤克巳	四十才	志雄太子講	谷口猛
〃	松田峰治	五三才	志賀町	石村高志
〃	樋口貴久	二一才	〃	永井清嗣
〃	中島啓一	三七才	〃	関野直人
〃	中村真一	四一才	徳田	大脇翔太
〃	大谷哲也	四二才	鹿西	谷内田正博
〃	河口徹	四三才	輪島市	高野健
〃	岡啓太	二七才	穴水町	宮下政司

大聖寺	山下浩二	五八才	金沢市	北堀実
小松南部	中山誠	六四才	〃	吉本正夫
金沢市	濱秋男	六六才	輪島市	上野悟宏
〃	表敏明	七四才		
〃	中野勝二	八五才		
〃	吉田弘史	七四才		
〃	北村金一	八二才		
〃	三谷規矩雄	八三才		
〃	姫野博	八二才		

物故者氏名

謹んでご冥福を
お祈り申し上げます。

第2回 ボウリング大会の開催

平成二十六年度ボウリング大会が十二月七日(日)金沢市無量寺町のコロナ キャットボウル金沢店において開催された。

当日は、二十三レーンを使用することとなり各地区から選ばれた九十六名が参加して行われた。大変久々のボウリング大会という事で、中高年選手や若手選手、さらには家族選手も練習開始から熱の入ったゲームを半日取り組みました。

十時に開会し、加藤会長からボウリング大会でけがの無いように楽しい時間を過ごそうとの開催挨拶、引き続き髙嶋厚生部長のルール説明があり、二ゲームの総得点で順位を決定する事、女性は一ゲームにつきハンディを二〇とすること等が説明された。

五分間の自由練習の後、西田副会長による始球式を行って競技開始となった。

ボールに指が合わず、ドスンと落としてあわててボウル変更する人、力みすぎてレーン上に転ぶ人などの笑いを誘うアクシデントもありましたが、順調に競技が進んでいき、ストライクを連発するセミプロ級の選手あり、確実にスペアーを取る選手あり、後方で見ていても目の覚めるような場面展開が何度もありました。ハイタッチの連携の良さ、にぎやかな歓声が上がるなど、事務局としても今回のボウリング大会が成功したことを確信しました。

各選手試合を終え順次レーンを上がり、得点集計待ちの間も、各選手はフォームの反省点を語り合ったり、ストライク回数について話すなど和気あいあいの内に点数発表となり、以下のとおり表彰されました。

1位 岩崎五十二　336点
2位 竹内　伸雄　332点
3位 川田　一久　327点
4位 油木寿美男　322点
5位 畠中　寛　317点
6位 梅田　時雄　315点
7位 井平　秀一　314点
8位 谷口　啓司　310点
9位 赤土　和由　310点
10位 高田　春男　307点

表彰式の後、田下副会長の閉会あいさつで締めくくり、和やかなうちに大会は終了しました。時にはご家族でボウリングをされ、来年もまた参加し高得点を狙えるよう技術力アップを目指したいですね。

「学習机を考える」

広報部長　田下　茂良

私は、ある市民会議に参加しています。それは、地元の「木」の再生を考える会です。物事は「川上から川下まで」と言う言葉が有りますが、私は川下の仕事をしています。

自分の育った小学校は、杉の木の節有天板の机でした。それはそれで板の継目に消しゴムのかすをつめたり、コンパスを立てたりと色々と悪さをした想い出として残っています。そこで、後で考えてみると、物の大切さやいたわりが大事で有ると言うことを勉強させて貰った机だと思います。

現代の机は、同じ物が横並びに整列されている状態です。この会で、私は杉の板の天板を小学校入学時に取付け、小学校6年間自分の物として大事に使用して行くことを提案しています。

やんちゃに使えば傷み、大事に使えば傷みは無く、卒業証書と一緒にプレゼントすると言う事も考えたいです。

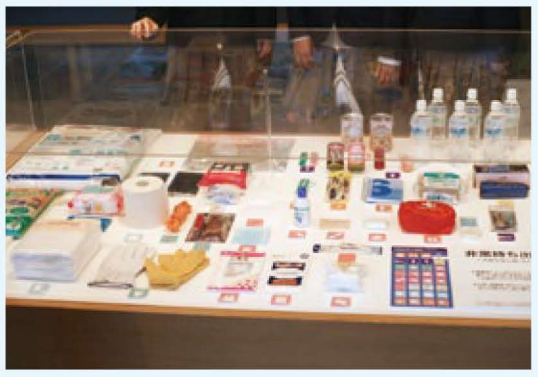
何時の日か実現する事を願っています。

「阪神淡路大震災より20年を迎えて」

広報副部長　越村　治

昨年十二月五日に浅野町校下の研修日帰り旅行で、神戸市中央区にある**「人と防災未来センター」**に行ってきました。このセンターは、阪神・淡路大震災の経験と教訓を未来に伝え、防災・減災社会の実現のために必要な知識を学ぶことが出来る施設です。

自らの震災体験を語る〔語り部〕さんの話から、町内のほとんどの木造建物が倒壊し建物の下敷きになった人を、町内の大工さんが、助かった人に声を掛け建物から救出したそうです。その町内では、建物の下敷きで亡くなった人は、いなかったそうです。貴重な話を聞くことができました。



西館四階の〔一・一七シアター〕では、大地震の破壊のすさまじさを大型映像と音響で体感しました。減災体験フロアには震災を教訓に非常持ち出し品が展示してありとても参考になりました。

石川県でも能登地震があり、今後も防災について意識を高めたいと思います。

第五十二回 技能五輪全国大会開催

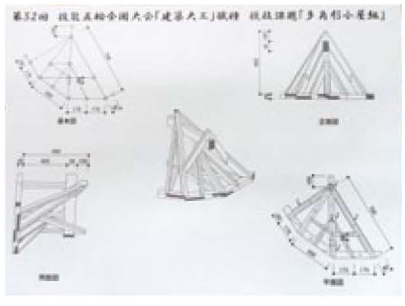
県連代表の澤井選手多いに奮闘す！

十一月二十八日～十二月一日まで、愛知県内十三会場で「第五十二回技能五輪全国大会」が開催されました。技能五輪は二十三歳以下の若き技能者の技能レベルを競う大会で、全国四十七都道府県から集まった四十一業種一、二〇〇人の代表選手が、日頃培った技術を競いました。

今大会、建築大工には全国二十三都道府県から六十五選手が参加し、課題「多角形（十三角形）小屋組み」の制作で技能技術を競いました。課題は年々難しくなってきています。石川県連からは澤井　廉選手（金沢市建築組合所属）が参加しました。大会結果は金賞が山形県の若林信選手、銀賞は東京、新潟、埼玉の三選手、銅賞三選手でした。

大会に同行した県連加藤会長の感想では、「入賞作品はいずれも高レベルで、県連の澤井選手も良く練習を積んで善戦した。今後もこれを糧として頑張ってほしい。」とコメントがありました。

若手大工の皆さんも今日からは入賞選手に負けずに技能をより一層磨きましょう。



平成二十六年度の技能検定受験準備講座開催される

例年年末に開催している準備講座を今回は一級受検を目指す受講生二十名を対象に十一月二十九日～十二月二十日の毎土曜日四日間、金沢職人大学校実習室および県連三階教室において実施した。

講師は金沢市建築組合の中村清光講師と講師補助に志雄太子講建築組合の丸田勇二氏に指導をお願いし、期間中受講生は大変熱心に取り組み、また講師の先生も繰り返し黒板や模型を活用して分かり易い講習に心掛けていました。

技能実技試験は一月の十七日に金沢市の観音堂産業技術専門校で開催されました。全員合格されることをお祈りします。